

桃子記者がゆく

東洋食品さんとは？

やすらぎの杜、開所当時から毎日美味しい食事を皆さんに作ってくださっている給食委託会社さんです。

運動会のお弁当



運動会のお弁当も東洋食品さんの手作り！ボリューム満点でとっても美味しいです。一つひとつ丁寧に飾り切りして、とても綺麗で色鮮やか☆

総勢14名が、朝5:00～夜20:00までのローテーションで勤務。朝3名、昼5名、夕3名の人数体制です！

皆さん美味しそうに残さず食べてくれるので作り甲斐があります！

栄養士と調理師のダブル資格を持っている神林さん！24歳、新潟出身。お菓子作りが好きな期待の星です★

東洋食品さん編



調理師さんの声



年に2回行われるバイキングは東洋食品さんが大活躍です！テーマに沿った料理を作ってお下さり、こちらの要望にも快く答えてくださいます。

食べている人の顔が見れる職場なので、相手の顔を浮かべながら調理をしています。利用者さんと関わる時間は少ないですが、その分会えた時はとても嬉しいです。(2児のママ、増戸栄養士さん)

8月のバイキング



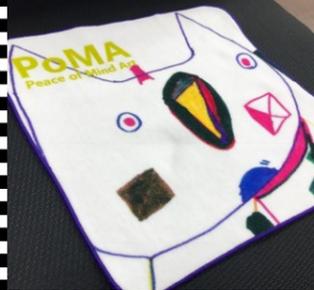
今回は、やすらぎの杜に欠かせない存在の東洋食品さん取材して参りました！行事での活躍をピックアップしてお伝えします。

PoMAからのお知らせ！！

新商品！！

ハンカチタオル販売

ご自分用でお出かけに持ち歩いたり、ちょっとしたプレゼントにも最適です。価格は1枚¥800です。



PoMAカレンダー2017好評販売中です！！

今年も月ごとに味のある作品が多数登場します。毎月めくるのが楽しみな素敵なカレンダーに仕上がりました。やすらぎの杜事務所や各イベント先等にて販売しています。ぜひお買い求めください。

*サイズは2種類！ A4版(大) ¥1200 / A5版(小) ¥1000



パン工房からのお知らせ！！

クリスマスにぴったりの新商品

シュトーレン 発売！！

バターをたっぷり使用しています。数に限りがありますのでお求めの際はやすらぎの杜パン工房へご連絡ください。(1個¥800)



杜の便り

～研修報告～ 今回は2つの研修報告をご紹介します。

『コミュニケーション推進 体験ワークショップ研修 導入編』

皆様は「話をくきく」という文字を漢字にすると、どのような漢字を思い浮かべますでしょうか？聞く、聴く、訊くと様々な漢字が出てきますが、これらは単純に音として捉えるものから話を引き出すといった意味を含むものまであります。今回、私は10月に職員実践力向上講座に参加し、その講座で「話をく聴く」とこの重要性を学びました。講座では「聴く」とは相手の話を共感することで、相手の意見や感情を肯定しつつ相手とは違う価値観や考え方を持つ自分がいると明確に区別すること、と教えてもらいましたが、分かりやすく言えば「相手の言い分も分かるがそれに流されない自分を持つこと」という意味になります。この「聴く」ことができない、つまり相手の意見に流されがちになると、物事に対して鈍感になったり関心が無くなったりする傾向になり、現実に対して「忙しいから」「人が少ないから」と軽薄になることに繋がると講師の方は教えてくださいました。人を支える仕事において「忙しいから」「人が少ないから」は言い訳にならず、だからこそ私たち社会福祉援助者は「聴く」技術を基盤として身に付けなければならないと、ここで「聴く」ことの重要性を思い知らされました。

また、「聴く」ことの重要性を教えた後で、実際にどのように話を聴くのか体験研修も行いました。これが実に面白い内容で、1対1でお互い面と向かい合い10分間相手の話を聴くというのですが、聞き手は「はい」「うん」「～なんですね」しか返すことができないという制限付きでした。初対面の人間同士がお互い向かい合うことで恥ずかしくなり、その中で一方が話し続けてもう一方が相槌を打ち続けるという異様な光景が出来上がるわけで、実際に行った私も何とも言えない気分になりました。しかし実はこれにも意味があり、お互い向かい合ったのは会話以外にも視線や体の動きなどで相手の感情を読み取ることが出来るため、聞き手の返答を制限したのは会話を遮らないことで話し手が伝えたいことをすべて引き出せるようにするためだったのです。特に相手の会話を遮らないということは意識しないうとなかなかできないことで、相手が話している時に自分が思ったことをその場で言ってしまい、相手の話を途中で止めてしまったことがあるなんて経験をした方は多いのではないのでしょうか。「聴く」ということはまずは相手が伝えたいことをすべて引き出せるようにすることから始まるのです。

今回の研修は会話の中で本当に相手の伝えたいとしていることを理解していたのか、また理解した上で自分の考えを持っていたのか、と今まで行っていた会話のあり方について見直す良い機会となりました。理解があつて芯も強い！そんな立派な支援員を目指せるように色々な人達の話を「聴く」努力をしていきたいと思えます。

(入所部：山田 真司)

サービス管理責任者研修(就労継続支援)

今回サービス管理責任者就労分野の研修を受講しました。

※サービス管理責任者とは…障害福祉サービス分野で利用者に合わせた個別支援計画の作成や、支援サービスに関わる担当者との連絡調整、サービス提供者の指導を担う、障害福祉サービス提供のまとめ役になります。

今回受講した就労分野の研修には、やすらぎの杜のように入所・通所併せた施設、就労移行のみの施設などの様々な場所から受講者が集まり、就労を支援する中でどのようなサービス・ネットワークが必要なのかを、2日間の受講を通してグループで協議しプランの作成や、個別支援計画を作成しました。“新規事業の立ち上げ”というテーマで、就労支援施設を作るとしたら、どんな仕事を主とした施設を作りたいかグループの中で話し合いました。高尾の施設から受講に来た方の意見をメインに、高尾にて地元野菜を作り、その野菜で作った漬物“元氣漬け”を登山者に向けて販売しよう！というコンセプトを設け、漬物を主な作業とする一方で登山客が少ない時期には、山にて遺跡を発掘する仕事(実際にあるようです)を提供するという事でまとまりました。(仮にということで)発想が少し豊かになりましたが、施設運営のみならず利用者・職員が楽しみを持って仕事に取り組めるよう提案・提供することも支援の一つであると思いました。

最後に講師よりこんなお話がありました。

“利用者へサービスを提供し、提供者(職員)を指導する中で何か問題が起きてしまうとき、もぐらたたきのように叩いてまわるだけでは一時的な効果しか得られない。もぐら(根本)を退治できなければ、何度ももぐらを叩くことになる。” “どんな問題であっても向き合うことを忘れずに丁寧に支援を続けて下さい。”

計画書の策定や、評価を明確化するだけではなく、利用者や職員、他機関の仲介役として様々な問題と向き合いサービスを提供できる職員でありたいと思えました。(ショートステイ担当：村上 智恵)

自衛消防訓練審査会

高野・鈴木ペア 3位入賞！

毎年開催されている『自衛消防訓練審査会』に、入職2年目の職員「高野・鈴木ペア」が参加しました。盤石な防火管理体制の構築と、災害時の自衛消防活動能力の向上を目的とした「自衛消防訓練審査会」高野・鈴木ペアは見事3位に入賞しました！
この経験を糧にやすらぎの杜の安全を守って欲しいと思います。



今回自衛消防訓練に鈴木さんと参加させて頂きました。昨年の先輩方が良い結果を残されているので、私たちも良い結果を残さなければという思いで練習に励みました。

先輩方に練習の様子を見て頂き、アドバイスを頂いた足を合わせて止まる動作や、掛け声なしで止まる動作が難しかったため、指揮者である鈴木さんの合図で止まる練習を何回も行いました。

審査会当日は、自分たちの順番が回ってくるまで足合わせや動きの練習をし、各自でセリフの練習を行いました。私はとても緊張しており、緊張しているはずの鈴木さんに励まされました。先輩方には本番は頭が真っ白になると聞いていましたが、実際自分たちの順番が回ってくると、鈴木さんの掛け声に意識を集中させていたためか周りの音が聞こえず、頭が真っ白になる事なく、間違えや焦ってしまった所もありましたが無事に終わらせることが出来ました。結果は3位入賞でした。結果を聞いた時は悔しい気持ちになりましたが、メダルを首にかけて頂いてからは悔しさよりも喜びに変わりました。今回自衛消防訓練を行い訓練の大切さをより一層感じる事が出来ました。今回1番員をやり、本番では焦りや間違えがあったので、いつかまた自衛消防訓練をやらせて頂いたら1番員でリベンジし、今回より良い結果を残せたらと思います。また今回の経験を生かし、利用者さんたちの安全を守っていききたいと思います。(通所部：高野 愛弓)

今回、自衛消防訓練審査会参加の話聞いた時、とても驚いたのを覚えています。訓練の大会のようなものがあることも、それに自分が参加することも全く想像していなかったためです。先輩や上司のみなさんから話を聞いたり、壁に飾られた歴代の栄光の証を眺めるうちに、「果たして自分なんかができるのだろうか」という不安を大きくさせていきました。

初日の練習では、まだ勝手が分からず、とにかくセリフを覚えようと台本を片手に何度も掛け合いを重ねました。自分たちだけでは操法を客観的に見るのが難しかったのですが、以前大会に参加された先輩たちに操法を見ていただくことで、より具体的なアドバイスを受けることもできました。「声を大きく、速く、指先までしっかり伸ばす」という3つの点を意識しながら、大会に臨みました。

大会を迎えいざ会場に到着した時、不安よりもわくわくした、高揚した気分でした。私は元来上がり症なのですが、この時ばかりは練習を重ねてきた確かな実感と、「指揮者として1番員を引っ張らなければ」という意志でなんとか緊張を最小限に留められていたのだと思います。操法が始まってからは、私の声と、1番員の高野さんの声だけが聞こえるような、そんな錯覚に陥る程に集中し、今自分の持てる100%の力を出し切れたような気がします。

結果は3位入賞で、私自身、今まで何かの大会で色のついたメダルを貰う、という経験はなかったので、とても嬉しかったです。また、訓練に参加することで、日頃の避難訓練の大切さ、その質について、今一度考える機会にできたように思います。(入所部：鈴木 万里子)



杜まつり

9月25日(日)毎年恒例となった杜祭りが開催されました。今年で8回目を迎えた杜祭りですが、前身は施設の文化祭でした。今のような華やかなお祭りとは違い、地域との関わりも少ない行事でした。

平成21年度より文化祭と夏祭りを統合、新たなイベントとして杜祭りがスタートしました。大きく変わったのは外部や地域との関わりを強く打ち出したことです。関町北小学校のコーラス、関中学校のウィンドアンサンブル、石神井高校のダンス、コーラスを始め、地域の和太鼓や、空手の演武、大道芸人、ご当地ヒーロー等様々な方々が出演され、素晴らしいパフォーマンスを披露して下さいました。またバザーも規模を拡大していくことで地域との関わりが増えていき、本来の目的である、やすらぎの杜の存在と障がいを持つ方たちへの理解と交流に大いに効果を上げていきました。このように杜祭りはボランティアや地域の方々のご協力が無いと成り立たない行事となっております。今後とも、やすらぎの杜と、杜祭りがより良い方向へゆく様努力して参りますので、ご支援、ご指導よろしくお願い致します。

杜祭り実行委員長 渡辺 健治



モリンピック



10月10日(月)に第13回モリンピックが開催されました。

今年は「ウォーターレンジャーヤンキーズチーム(水色)」と「ピンクパンサーチーム(ピンク)」の戦いが行われました。Tシャツデザインは、利用者さんのイラストを採用させていただき、とても素敵なTシャツが完成しました。当日は皆さんの熱い戦いが繰り広げられ、閉会式ではオリンピック・パラリンピックイヤーにちなんで、フロア対抗でそれぞれにメダルを授与させていただきました。

皆さんの良い笑顔・あたたかい声援を間近で感じることができ、委員長としてとても嬉しい運動会となりました。

ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた皆さんの皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

運動会実行委員長 町田 祥美

